

1 研究主題

情報社会に主体的に生きる力を育む教育の研究と実践
—教育の情報化の推進を通して—

2 研究内容

- (1) 日時 平成 30 年 7 月 31 日 (火)
- (2) 会場 宇和中学校 P C 教室
- (3) 研修

① プログラミング実技研修

久保田温教諭を講師に、「Scratch」を使った実技研修を行った。

- ア 道から外れない車
- イ 正多角形を描く(正方形、正五角形等)
- ウ アニメーション
- エ 「mB o t」の紹介

② i P a d のアプリ紹介

市情報教育コーディネーター國広達也氏を講師に、現在各校の i P a d に搭載されている様々なアプリケーションの特徴や使い方等について紹介を受けた。

- ### ③ 学校ホームページ新システムへの移行について
- 情報教育委員長が、学校ホームページ新システムの申請や作成の方法について講義を行った。



<「Scratch」の実技研修>



<i P a d のアプリ紹介>

3 成果と課題

(1) 専門研究委員会研修会について

- 2020 年度から始まるプログラミング教育においては、現在様々な方面で研究が進められているが、ほとんどの場合、使用されている言語は今回の研修で使用した「Scratch」である。何から始めてよいのか分からない会員が多い中、説明を受けながら実際に体験できたことの意義は大きい。西予市内で先進的に研究されている教職員の多くは退職間近のベテランであるため、2020 年度に向けて会員全員で研究を進めていきたい。
- 市内小・中学校においては、授業への I C T 活用が進み、iPad の使用頻度が高まってきている。しかし、実際に使っているのはごく一部のアプリに留まっているのが現状であるため、今回紹介を受けたものをはじめとした様々なアプリの授業への活用について、研究を進めていきたい。
- 学校ホームページについては、2019 年度末をもって新システムへの完全移行となる。旧システムからのデータの引き継ぎ等はできないため、早めの取組が必要であることを共通理解することができた。

(2) その他

- プログラミング教育については、情報教育主任のみが推進するものではなく、全ての教職員が同様に指導できるようにならなければならない。情報教育委員会が中心となり、より多くの教職員に研修の機会を提供していかなければならない。
- 西予市内小中学校の普通教室では、スクリーン・電子黒板機能付きプロジェクタ・書画カメラ・タブレット端末等が整備され、すぐに使える環境が整っている。使用頻度を上げるとともに、より効果的な活用法について研究を進めていきたい。また、不具合へのスムーズな対応について、市へ要望していきたい。